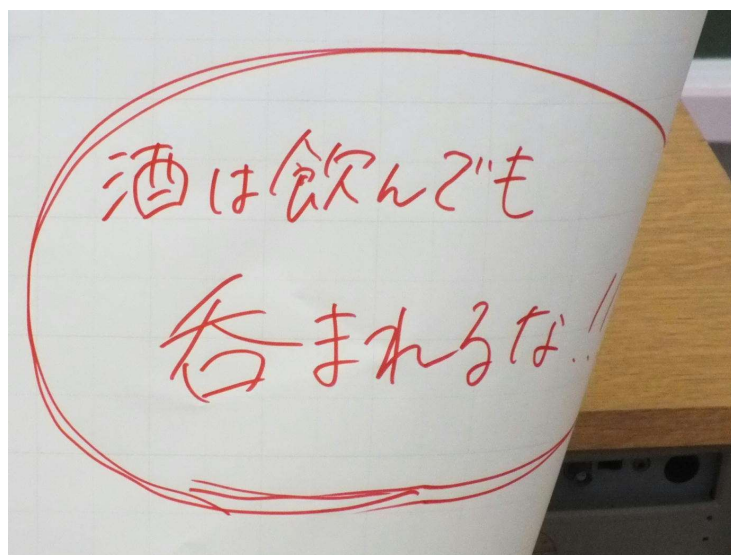


旭川市立大学飲酒運転根絶ワークショップ 開催結果について



1 ワークショップの目的

平成27年に北海道飲酒運転根絶条例が施行されてから令和7年で10年となるが、北海道内における飲酒運転は未だ後を絶たない。「飲酒運転をしない、させない、許さない、そして見逃さない」を合い言葉に、体験を交えた講習を通して飲酒運転根絶の機運醸成を図る。

2 開催概要

開催日時	令和7年10月1日(水)午後1時00分から午後4時10分
場所	旭川市立大学313教室
参加者	旭川市立大学保健福祉部コミュニティ福祉学科学生 25名
次第	1 開会 2 主催者挨拶・説明（北海道） 北海道内の飲酒運転について 3 飲酒教育（東海電子株式会社） アルコール体質検査パッチを使用した体験及び講話 4 講話（東海電子株式会社代表取締役） 「飲酒運転とその防止策等」について 5 飲酒運転疑似体験等 飲酒状態体験ゴーグル、ドライブシミュレーター、 アルコールインターロックデモ機 6 グループ討議、発表 7 総括

3 グループ討議結果

下記のテーマをグループごとに討議し、グループごとに意見をまとめ、その意見を発表してもらいました。

大学生のA（20歳）は、午後7時から〇〇市内の居酒屋で大学の友人と飲食をする約束をしており、居酒屋が自宅アパートから歩いて15分程度の場所にあるため、授業後、いったん帰宅してから歩いて居酒屋に行くつもりでいた。

Aは帰宅後、翌朝の食材がないことに気づき、居酒屋に向かう前に自分の車を運転して同市〇〇町のスーパー（居酒屋とは反対方向）に買い物に行くことにした。

Aはスーパーでの買い物を終えて時計を見たところ、午後6時45分になっていたことから、帰宅してからでは約束の時間に間に合わないと思い、スーパーから直接、車を運転して居酒屋に向かうことにした。

午後7時少し前、Aが居酒屋近くのコインパーキングに車を駐車したところ、約束をしていたB、C（ともに20歳）も現れ、3人で居酒屋に入店した。

席に着くとAがビールを注文したことから、Bが「車はどうするのか」と聞いたところ、Aが「後で運転代行を頼もうと思う」と答えたことから、B、Cはそれ以上何も言わなかった。

なお、居酒屋での飲食中にAが運転代行を頼むことはなかった。

3人は午後7時頃から午後9時頃までの間、居酒屋でそれぞれビールを中ジョッキで5杯とワイン、カクテルを飲み、二次会で近くのカラオケボックスに行くことにしたが、Cはゼミの課題提出期限が迫っていたためカラオケには行かずに帰宅した。

A、Bは居酒屋を出てカラオケボックスに行き、午後9時過ぎから午前0時頃までの間、カラオケをしながらカクテル、サワーをそれぞれ7杯飲んだ。

カラオケボックスを出て駐車場の近くまで来たところで、BがAに対し「車はどうするのか」と聞いたところ、Aが「運転代行を呼んで帰る。代行が来るまでの間、車の中で休んでいる」と答えたので、BはAと別れて帰宅した。

午前0時過ぎ、Aは車に乗り込んだ途端に強い眠気を感じ車内で寝込んでしまった。

目が覚めて時計を見ると午前4時になっており、Aは自分の顔や体が「熱があるように熱い」感じがしたが、運転しても問題ないと考えて車を発進させた。

Aは車を運転して自宅アパートに帰る途中、赤信号を見落として交差点に入ったことで右方向から来た車と衝突する事故を起こした。

通報で駆けつけた警察官がAから酒の臭いがすることに気づき、呼気検査をしたところ、Aが基準値以上のアルコールを保有していることが判明した。

なお、相手車両の運転者（成人男性）は、首を捻挫して全治3週間と診断された。

検討1：Aになったつもりで考えてください

- Aは、どうして飲酒運転をしてしまったのでしょうか。場面ごとのAの気持ちも考えてください。
- Aには、飲酒運転をしないで済む機会（チャンス）がいくつかあったと思います。
それは、どの場面で、どのような行動をとるべきだったのでしょうか。

検討2：B、Cになったつもりで考えてください

- Bには、Aが飲酒運転をしないよう行動を起こす機会（チャンス）がいくつかあったと思います。
どの場面で、どのような行動をとるべきだったのか考えてください。
- Cには、Aが飲酒運転をしないよう行動を起こす機会（チャンス）がいくつかあったと思います。
どの場面で、どのような行動をとるべきだったのか考えてください。

検討3

- 飲酒運転がなくなる要因、背景には何があると思いますか。
- 飲酒運転を根絶するために、どうすべきでしょうか。
個人の行動に関すること、組織や社会で取り組むべきこと、行政機関が取り組むべきことなど、何でも構いません。

検討課題	検討結果
○ Aはどのようにして飲酒運転をしてしまったのでしょうか。場面ごとのAの気持ちも考えてください。	・ Aには「事故を起こさない」「大丈夫」という油断や過信があった。 ・ 「運転代行を頼むのがもったいない」という気持ちが起こり、飲酒運転をしてしまった。 ・ 当初は運転代行を頼むつもりでいたが、飲酒によるアルコールの影響で正常な判断ができなくなり、飲酒運転をしてしまった。 ・ 運転代行を頼むつもりで飲酒していたが、やがて代行を頼むのが面倒くさくなってしまった。 ・ 代行を頼んでも、いつやってくるか分からないので、運転して帰った方が早いと考えてしまった。 ・ 駐車場の車内で寝込み、覚醒した際に「飲酒してから時間が経ったので大丈夫」と勝手に解釈してしまった。 ・ 後先考えず、冷静さが失われ、飲酒運転をしてしまった。 ・ 飲酒をする場において、約束の時間に遅れてしまうことにより、焦りや、友人の気持ちを害したくないと思い、車で行ってしまったこと。
○ Aには、飲酒運転をしないで済む機会（チャンス）がいくつかあったと思います。それは、どの場面で、どのような行動をとるべきだったのでしょうか。	・ 当初は歩いて居酒屋に行くつもりであったところ、買い物のために車を運転したものであるが、買い物の後、自宅アパートに帰り、車を置いてから徒歩で居酒屋に向かうべきであった。 ・ 約束の時間に遅れてでも、車を自宅に置き歩いて居酒屋に向かうべきであり、その旨を友人に電話連絡すべきであった。 ・ 友人と合流してから居酒屋に向かう途中や入店時、カラオケに向かう途中など、運転代行を頼む機会はいくつもあった。 ・ BやCと一緒にいるうちに同人らの目の前で運転代行に連絡するべきであった。 ・ 自分の身体の異変（不調）に気が付いた時に、運転はやめ、徒歩もしくは他の交通手段で帰宅すべきであった。 ・ 運転代行への連絡を後回しにするのではなく、その場で行うべきだった。

検討課題	検討結果
○ B、Cには、Aが飲酒運転しないよう行動を起こす機会（チャンス）がいくつかあったと思います。それは、どの場面で、どのような行動をとるべきだったのでしょうか。	・ Aが車で来ているのが分かった時点で、自宅アパートに車を置きに帰らせるべきであった。 ・ 自分が見ている前で運転代行に連絡させるべきであった。 ・ Aと分かれる前に、Aに対して「運転代行を頼むこと」「絶対に飲酒運転をしないこと」を言うべきであった。 ・ 帰宅後、電話などでAが無事に帰宅したことを確認するべきであった。 ・ 途中でAと分かれることなく、一緒に帰るべきであった。 ・ Aが深酒となり正常な判断ができなくなった可能性があることを踏まえ、あらかじめ飲酒時間を決めておくべきであった。 ・ 運転代行が来るまでAと一緒に待つべきだった。 ・ Aの代わりにBやCが運転代行を呼ぶべきだった。 ・ Aが車できていることを知っているのならば、BやCはAに対し「飲まない方が良い」と提案すべきだった。 ・ Cは帰宅後、Aに運転代行などを使って帰れたのか連絡をすればよかった。
○ 飲酒運転がなくなる要因、背景には何があると思いますか。	・ 「このくらいなら大丈夫」「自分は事故を起こさない」「捕まらない」といった安易な考えで飲酒運転に及んでいるものと思われる。 ・ 飲酒運転の罪の重さや重大な事故につながるという危険性が理解されていない。 ・ 運転代行やタクシーの料金が高く、又は、夜中の交通の便の悪さから運転代行やタクシーを頼むのをためらい、飲酒運転をしてしまうのではないか。 ・ 飲酒運転をしている、しようとする者に対して、周囲の者が注意しづらいのではないか。 ・ 飲酒による判断力の低下から、これくらいなら飲酒運転をしてもいいと過信に変わったもの。 ・ 飲酒量に応じたアルコール分解時間の知識不足 ・ 飲酒当初は飲酒運転をしないと思っていても、アルコールの影響で正常な判断ができなくなり、飲酒運転をしてしまうのではないか。 ・ そもそも、飲酒をする場において、車で行かない。 （次頁）

検討課題	検討結果
	・ お店の人に運転代行を呼んでもらうなどのサービスの普及をする必要がある。 ・ 飲酒の場という易きに流されやすい環境が要因ではないか。 ・ 飲酒の場において周囲が注意しづらい雰囲気になっていることが要因ではないか。
○ 飲酒運転を根絶するための方策 （個人の行動、組織や社会、行政機関が取り組むべきことなど）	個人の行動に関すること ・ 飲み会の場には車を運転して行かず、公共交通機関を使用する。 ・ 翌日車を使用する予定があるならば、使用する時間に合わせた飲酒量をあらかじめ決めておく。 ・ 飲酒した翌日は車の運転をしない。 ・ 飲み会の参加者が車を運転して来ていないことを確認する。 ・ 複数人での飲酒する際、飲酒せずに仲間を車で送迎する人を決めておく。 ・ 仲間同士で、あらかじめ帰宅手段を確認しておく。 ・ あらかじめ帰宅手段を確保しておく。 ・ 車で来ている人がいたのが判明したならば、最悪のことを考え、全員お酒を飲まないという選択をしてもいいと思う。 組織や社会、行政機関に関すること ・ 公共交通の充実化 ・ 公共交通料金の引き下げ（国や地方自治体による補助金交付） ・ 運転代行を頼みやすい環境づくり（頼んだことがないので分からない） ・ 飲食店における、来店客の飲酒の有無（飲む人、飲まない人）の確認 ・ コインパーキングでの飲酒運転防止の呼びかけ ・ コインパーキングでのアルコールチェックの義務化 ・ アルコールインターロック装置取り付けの義務化 ・ ドライバーに対してアルコールチェックをする。 ・ 大学の講義などで飲酒運転禁止の活動を行う。

4 自身の飲酒運転根絶に向けた決意及び道民の皆さんに向けた飲酒運転根絶メッセージについて

今回ワークショップに参加頂きました、大学生達は、北海道から飲酒運転を根絶するために飲酒が運転に及ぼす影響等を正しく理解するとともに、「飲酒運転をしない、させない、許さない、そして見逃さない」といった意識を持った行動を起こすことが非常に重要であることを認識しました。

ワークショップ参加を踏まえて、自身の決意及び飲酒運転根絶に向けたメッセージを頂きました。

【決意】

- ・飲酒運転は一瞬の判断ミスで多くの人を不幸にしてしまうと改めて感じました。自分自身は絶対にしないことを徹底し、周りにも注意を促していきたいです。
- ・車があるならお酒を飲ませない、飲まないで行きます。
- ・自覚を持ち運転していきたい。
- ・のみ会に車でいかない！
- ・飲んだら運転しない、車で行く場合は代行で帰る。飲酒運転をしそうな人がいたら、全力でとめたいと思う。
- ・飲酒運転をしないために、飲酒をする場に車で行かないことと、どうしても車で移動する場合は帰る時間をあらかじめ決め、運転代行を呼ぶことを徹底するようにする。飲酒運転をさせないために、公共交通機関で移動し、終電で解散することと、運転代行を頼んで来るのを見てから解散するようにする。また次の日の予定も聞き、朝早いときは止めるようにする。
- ・周りに飲酒運転者がでないよう、ハンドルキーパー等を率先して決める。飲み場にいる人全員の帰宅手段を飲む前に決定しておく。
- ・飲酒運転に繋がり得る行動一つひとつを意識して防ぐという意味を持ち続けようと思った。
- ・運転免許を取得しても飲酒運転に気をつけたいです。
- ・飲酒運転をしないのはもちろんのこと、友達や家族などに”させない”意識をもとうと思います。
- ・しないということは前から強く思っていたが、今回はまわりにもさせないということを学んだので、自分の周りの人がお酒を飲んだときには、交通手段などを気にかけるようにしたい。
- ・飲酒運転ダメ！！絶対！！
- ・飲酒は雰囲気やノリが楽しく、分かっている”つい”ルールを無視したり、気が緩んでしまうものだとし、事前に対策と一緒に飲む人との確認や配慮を忘れないこと。飲酒したら必要分の時間が経つまで車に絶対に乗らない、乗せないこと。被害者や遺族の方が今でも苦しんでいることを忘れず、絶対に自分が加害者にならないこと。
- ・グループワークで出たような飲酒運転を防ぐためにできることを考えながら行動して防ぎたい。事前に車で来たのかなど、確認をしっかりしたりすることくらいなら誰でもできると思うので、自分もやっていきたい。
- ・今回、事例を元に考えたり疑似体験を行ってみたりして飲酒運転がどれだけ危険なのかわかりました。また「自分はやらないだろう」と思っている、少しの気の緩みがきっかけになって起きてしまうということも理解したので、日常的に車を運転する身として、今後も気を引き締めていこうと思います。
- ・自分がお酒を飲んで、運転しないこと、一緒に飲んでいる仲間が運転して帰りそうなときには止めることを忘れずに友人とごはんを食べるようにしていきます。
- ・普段車は運転しないが、周りによく車を運転する人がいるので、飲酒運転に繋がらないよう、配慮のある対応を意識する。
- ・アルコールの怖さを深く理解し、「飲酒運転をしない、させない、許さない、見逃さない」を徹底する。
- ・私もお酒を飲む機会がありますが、飲酒運転に対し、特別危機感を持ったことがなかったため、お酒を飲む場での責任感を改めて持とうと思いました。この思いは自分も他人も命を救うものと感じています。
- ・飲酒運転しない！
- ・飲酒する際は運転以外の方法（交通手段）を検討すること、飲酒はほどほどに。ある程度常識に沿った状況判断ができる程度で楽しむ。（決して無理はせず、自力で帰宅できるようにする）
- ・車に乗って酒を飲みに行かない。
- ・飲酒運転は絶対阻止！！

【メッセージ】

・飲酒運転は自分だけではなく、家族や友人、たくさんの人を傷つけてしまいます。北海道から飲酒運転をなくすために、一人ひとりが「しない、させない」意識を持って行動していけたらと思います。先日は貴重なお話しと体験の機会をいただき、学びになりました。ありがとうございました。

- ・北海道は広いですが、お酒をのむ時は車を運転しないで下さい！
- ・飲酒運転ダメ絶対！飲酒運転は危険だと道民皆さん分かっていると思います！頑張りましょう！
- ・「自分は大丈夫」「1杯くらいなら」そんなことを思わないでください。後悔しない選択をしてください。
- ・飲酒運転は許さない。
- ・「自分は大丈夫」が取り返しのつかない大事故に。
- ・飲酒運転には気をつけましょう！！
- ・飲酒運転によって、自分や自分の大切な人、誰かの大切な人が被害にあうことがないように、ひとりひとりが理解や危機感をもちましょう。
- ・酒は飲んでも呑まれるな、お酒を飲む前と飲んだ後で変わらない判断を。
- ・飲酒運転で誰かの心を傷つけることがあるため絶対にしないようにしましょう。
- ・あなたの大事な家族や友人の笑顔を事故から守るために、まずは、自分や周りの人から加害者を生まないように。気の緩みが命取りになります。飲みすぎない、飲んだら乗らない。
- ・周りに「あれ？」と思うような人がいたら、声をかけるのが1番大切な事だと思います。誰かが気づくのを待つのではなく飲酒運転を未然に防ぐために自分から声をかけることが大事だと思います！
- ・飲酒運転は自分が思うよりも危険です。またその後の人生も狂います。「これくらいなら大丈夫」という少しの気の緩みで起こるものなので常に気を引き締め飲酒運転はしない、させないように徹底した行動を心掛けましょう。
- ・グループワークでの「自分が自己管理できる量にしよう」という言葉が印象に残りました。同じ地域の人も傷つけることがないように一緒に気をつけましょう！
- ・飲酒運転は運転する側も運転しない側もお互いが”しない” ”させない”ように配慮することが大切だと思います。
- ・「飲酒運転をしない、させない、許さない、見逃さない」を徹底しましょう。
- ・飲酒運転を根絶しよう！
- ・お酒を飲んだ後の「大丈夫」「何とかなる」は命取り（STOP飲酒運転）
- ・アルコールインターロックを導入しよう♪
- ・意識の弱さは事故につながるぞ！！

5 資料



主催者挨拶・説明

(北海道環境生活部くらし安全局地域安全課 交通安全担当課長 二瓶 友和)



飲酒教育

(東海電子株式会社 中山春美様)

アルコール体質検査パッチを使用した体験





講話

(東海電子株式会社代表取締役 杉本 哲也様)



飲酒運転疑似体験

(アルコールインターロックが取り付けられたドライブシミュレータ)



飲酒状態体験ゴーグル



アルコールインターロック体験

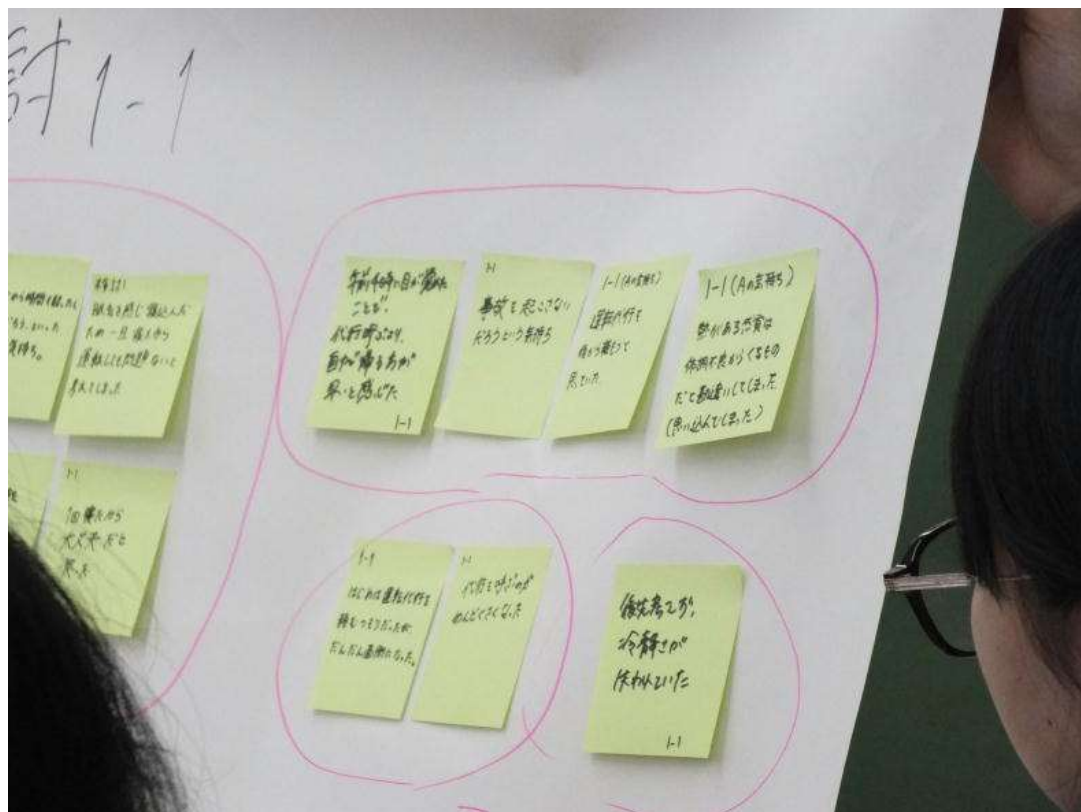
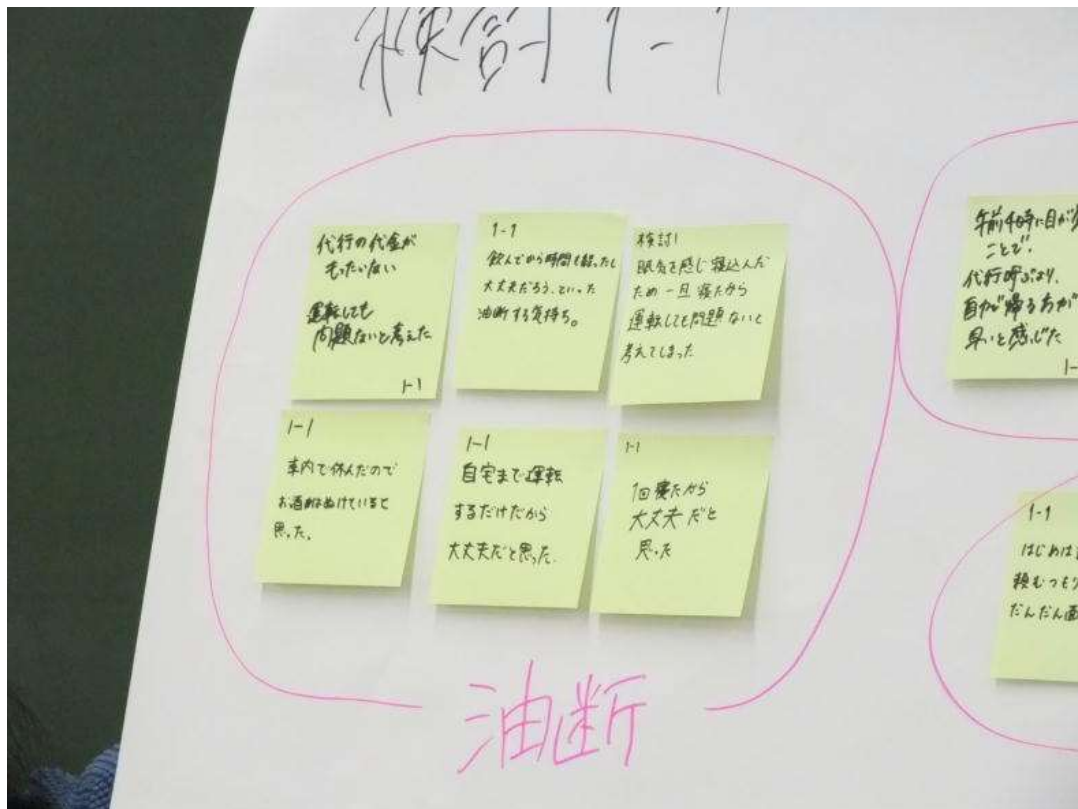
グループ討議



グループごとに発表



討議結果



①

974-6
A412.12

明治
 第一号
 第二号
 第三号
 第四号
 第五号
 第六号
 第七号
 第八号
 第九号
 第十号
 第十一号
 第十二号
 第十三号
 第十四号
 第十五号
 第十六号
 第十七号
 第十八号
 第十九号
 第二十号
 第二十一号
 第二十二号
 第二十三号
 第二十四号
 第二十五号
 第二十六号
 第二十七号
 第二十八号
 第二十九号
 第三十号
 第三十一号
 第三十二号
 第三十三号
 第三十四号
 第三十五号
 第三十六号
 第三十七号
 第三十八号
 第三十九号
 第四十号
 第四十一号
 第四十二号
 第四十三号
 第四十四号
 第四十五号
 第四十六号
 第四十七号
 第四十八号
 第四十九号
 第五十号
 第五十一号
 第五十二号
 第五十三号
 第五十四号
 第五十五号
 第五十六号
 第五十七号
 第五十八号
 第五十九号
 第六十号
 第六十一号
 第六十二号
 第六十三号
 第六十四号
 第六十五号
 第六十六号
 第六十七号
 第六十八号
 第六十九号
 第七十号
 第七十一号
 第七十二号
 第七十三号
 第七十四号
 第七十五号
 第七十六号
 第七十七号
 第七十八号
 第七十九号
 第八十号
 第八十一号
 第八十二号
 第八十三号
 第八十四号
 第八十五号
 第八十六号
 第八十七号
 第八十八号
 第八十九号
 第九十号
 第九十一号
 第九十二号
 第九十三号
 第九十四号
 第九十五号
 第九十六号
 第九十七号
 第九十八号
 第九十九号
 第一百号

[illegible]

国産の
 1/2の価格で
 増産した
 増産、増産を
 1/2、増産を
 1/2に
 増産、増産を
 1/2、増産を

- 車で「行かない(歩く)」
- 遅くても歩いていく
- 角井茜の前に(を)行を呼ぶ

③

白の太丈
 という品一足

お酒にあり
適切な判断がい
けない

車が便利、給電がはやい
サービスが少しい

4330

$$\begin{aligned} \frac{1}{2} \frac{d}{dt} \left(\frac{1}{2} \dot{\theta}^2 \right) &= \frac{1}{2} \dot{\theta} \ddot{\theta} \\ \frac{1}{2} \frac{d}{dt} \left(\frac{1}{2} \dot{\theta}^2 \right) &= \frac{1}{2} \dot{\theta} \ddot{\theta} \\ \frac{1}{2} \frac{d}{dt} \left(\frac{1}{2} \dot{\theta}^2 \right) &= \frac{1}{2} \dot{\theta} \ddot{\theta} \\ \frac{1}{2} \frac{d}{dt} \left(\frac{1}{2} \dot{\theta}^2 \right) &= \frac{1}{2} \dot{\theta} \ddot{\theta} \\ \frac{1}{2} \frac{d}{dt} \left(\frac{1}{2} \dot{\theta}^2 \right) &= \frac{1}{2} \dot{\theta} \ddot{\theta} \end{aligned}$$

サービスの普及

検討1

Aさんの気持ち

今から帰ることに
迷い込んで
寂しい気持ち
空しくなる

自分の気持ち
を伝えること
が大切

自分の気持ちを
伝えること
が大切

自分の気持ちを
伝えること
が大切

自分の気持ちを
伝えること
が大切

自分の気持ちを
伝えること
が大切

自分の気持ちを
伝えること
が大切

自分の気持ちを
伝えること
が大切

自分の気持ちを
伝えること
が大切

取るべき行動

自分の気持ちを
伝えること
が大切

自分の気持ちを
伝えること
が大切

自分の気持ちを
伝えること
が大切

自分の気持ちを
伝えること
が大切

自分の気持ちを
伝えること
が大切

自分の気持ちを
伝えること
が大切

自分の気持ちを
伝えること
が大切

検討3 要因と背景

自分の気持ちを
伝えること
が大切

自分の気持ちを
伝えること
が大切

自分の気持ちを
伝えること
が大切

自分の気持ちを
伝えること
が大切

自分の気持ちを
伝えること
が大切

自分の気持ちを
伝えること
が大切

社会

自分の気持ちを
伝えること
が大切

自分の気持ちを
伝えること
が大切

個人

自分の気持ちを
伝えること
が大切

自分の気持ちを
伝えること
が大切

Bのすべき行動 Cのすべき行動

クニエーで勝つ
ニとニ戦う

代わり
時と場合
代わり
代わり

Bはさける前に
代わり
代わり
代わり

Bは
代わり
代わり
代わり

Cは
代わり
代わり
代わり

Cは
代わり
代わり
代わり

Cは
代わり
代わり
代わり

代わり
代わり
代わり

Bは
代わり
代わり
代わり

Bは
代わり
代わり
代わり

代わり
代わり
代わり

代わり
代わり
代わり

どうあべきか

要因と背景

行政

組織
社会

個人

行政
行政
行政

組織
組織
組織

個人
個人
個人

行政
行政
行政

組織
組織
組織

個人
個人
個人

行政
行政
行政

組織
組織
組織

個人
個人
個人

行政
行政
行政

行政
行政
行政

行政
行政
行政

行政
行政
行政

行政
行政
行政

行政
行政
行政

行政
行政
行政

行政
行政
行政

行政
行政
行政

行政
行政
行政

行政
行政
行政

行政
行政
行政

行政
行政
行政

行政
行政
行政



総括

(旭川市立大学保健福祉部コミュニティ福祉学科助教 五所 卓子様)



総括

(東海電子株式会社代表取締役 杉本 哲也様)



総括

(北海道環境生活部くらし安全局地域安全課 交通安全担当課長 二瓶 友和)